



JAC

樹護士アーボリスト®チャレンジ

RULE BOOK

① Throw Line

② Tree Climbing

③ Rigging and Load Transfer

④ Rescue

2022

～ はじめに ～

ジャッジ、JAC 実行委員、および競技者は、競技開始前にルール全体を確認する責任があります。このルールブックに記載されている内容を把握し、フェアな大会を遂行できるよう関係各位にお願い致します。このルールブックは有効期間があり、必要に応じて更新されていますので必ず読んでください。

このルールブックは、参加資格、チーム構成、その競技の状況説明、そして競技説明、ルールから構成されています。

各セクションは、ルールブックを見やすいようにページ横の番号で識別されます。たとえば、「スローライン」に関連するすべてのルールは、番号 1 で始まります。競技説明は、各競技の最初に記載されています。競技説明はルールではなく、イベントの概要を説明したものです。各競技には、ペナルティーで失点する場合や失格もあります。

このルールブックは、年間を通じて競技者やボランティアからのフィードバックを使用して更新されます。JAC 実行委員会がこの一連のルールを策定するのに時間を割いてくれたことに感謝します。

JAC 委員会委員長 田中雅紀さん
ヘッドジャッジ 宇治田直弘さん
JAC 実行委員メンバーの皆さん

アーボリスト®トレーニング研究所所長 ジョンギヤスライト

このルールブックは 2022 年 10 月 30 日まで有効です。

このルールブックに記載されている内容を無断転載・引用・複写（コピー）を禁じます。本書に記載されている内容は Arborist ®Training Institute/樹護士アーボリスト実行委員会に帰属します。

① Throw Line

参加資格

- ・チームの構成は以下の条件を満たすこと。
 - ・メンバーの一人は必ず樹護士アーボリスト資格取得者
(もしくは樹護士アーボリスト受験資格保持者でこれから受験する方)
 - ・それ以外のメンバーは ATI のベーシックアーボリストトレーニングコース BAT1-BAT2 を修了した方

チーム構成

1 チーム 5 名

状況説明

- ・樹高 20～5m の 5 か所にスローラインで狙うポイントが場内にある。
- ・場内にはロープバックに収まったツリークライミングロープ 5 本、ハウススリーブ 5 本、リングセーバー 5 本、ライフサポートではないカラビナ大小数個が置いてある。
- ・作業を想定したエリアには選手とジャッジしか入れないように囲まれている。

競技説明

樹上に 5 か所のポイントがある。場内にはスローライン 3 本、スローバックは 8 オンス 1 つ、10 オンス 2 つ、12 オンス 2 つの 5 つしか持ち込むことができない。ジャッジのコールで時計はスタートする。チームで協力して多くのポイントを取る。スローラインがかかり MRS の状態にするとポイントが付く、ロープに変えるとポイントが加算される。フリクションセーバーは必ず使用しなくてはならない。ロープ及びスローラインを回収すると更に加点となる。最初の 10 分はロープセッティング、残り 5 分は回収 全部の制限時間は 15 分

ルール

- ・出場チームは全員が揃わなくてはならない。5 分以上の遅刻で失格となる。
- ・出場チームはヘルメット、セーフティグラス等 PPE をつけ、必要な持ち込みギヤを手に場内へ入る。
- ・スローラインのセットはスローライン 3 本、スローバックは 8 オンス 1 つ、10 オンス 2 つ、12 オンス 2 つの 5 つ以内をチームで持ち込む。

競技開始

- ・ジャッジの「1, 2, 3, GO」で時計はスタートする。
- ・チームの誰もが走ってはならない。もし走ったとみなされた時ジャッジは笛を吹き、
走った選手は 10 数えるまで全員がその場で動くことができない。
- ・コール、コールバックをしていないとみなされれば減点される。

スロー

- ・複数名同時にスローしても構わない。

- ・スローラインは一人何投でも投げることができる。
- ・スローラインは MRS の状態にならないと点数は入らない。
- ・スローラインが MRS の状態になった時にジャッジに「スローライン OK? 」と確認を求めなくてはならない。ジャッジが「OK」とコールを返せばスローラインのポイントが入る。場所により 5,10,15 点となる。
- ・ジャッジによるスローラインの「OK」コールがなされればロープに変えることができる。
- ・ロープの設置は必ずフリクションセーバーを使用しなくてはならない。
- ・フリクションセーバーはハウススリーブ、リングセーバー、のどちらでもよい。
- ・ハウススリーブ 5 点、リングセーバーは 10 点 点数が入る。
- ・ロープがかかりジャッジの前で 2 人でロープに体重をかけ「アンカーチェック」を行わないと点数が入らない。アンカーチェックポイント 5 点
- ・ダブルスローバックテクニックは何度使用してもよい。
- ・場外へのオーバースローは減点。
- ・スローバックを回収の時に落下する行為は減点。
- ・スタックは減点対象になるが時間内に回収できれば減点にならない。
- ・折れ枝は直径 1 センチ以上で減点となる。大きな枝を折ってしまった場合は大きな減点となる。
- ・ロープスローは行うことが出来ない。

回収

- ・アンカーチェックが終わっているロープは回収することができる。
- ・ロープの回収時はロープをロープバックに収納しなければ点数にならない。
- ・スローラインを回収しなければ回収の点数はつかない。

時間

- ・何度走ってペナルティーストップとなっても減点の対象とはならない。
- ・スタートから 15 分を経過したところで終了。速やかに撤収すること。

① スローライン スコアシート

チーム名				ジャッジ名	
制限時間（15分）	開始	時	分	終了	時 分
				所要時間	

ロープセッティング 10分以内

アンカー	ポイント1	ポイント2	ポイント3	ポイント4	ポイント5	
スローライン	5	5	10	10	15	
ロープに変更	5	5	5	5	5	
セーバー	5 10	5 10	5 10	5 10	5 10	
アンカーチェック	5	5	5	5	5	
ジャッジポイント テクニク	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	
ジャッジポイント チームワーク	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	小計①
計						
終了時間	時 分					

回 収 5分以内

開始時間	時 分					
アンカー	ポイント1	ポイント2	ポイント3	ポイント4	ポイント5	
回収	5	5	5	5	5	
					小計②	

ジャッジは↓ここに正の字で書き、集計をし、右側の合計欄に書いてください。

ノーコール（－１）		
スタック（－５）		
スローバックの落下（－２）		
枝折れ小（－１）		
枝折れ大（－５）		
小計③		

チームワーク	－ 5 0 5 1 0 1 5	
小計④		

総合得点（小計①＋小計②＋小計③＋小計④）	
-----------------------	--

点

② Tree Climbing

参加資格

- ・チームの構成は以下の条件を満たすこと。
 - ・メンバーの一人は必ず樹護士アーボリスト資格取得者
(もしくは樹護士アーボリスト受験資格保持者でこれから受験する方)
 - ・それ以外のメンバーは ATI のベーシックアーボリストトレーニングコース BAT1-BAT2 を修了した方

チーム構成

1 チーム 5 名

状況説明

- ・樹上 1 0 ～ 1 5 m 付近にクライミングアンカーとして使用するためにスローラインがかかっている。
- ・樹上 5 ～ 8 m 付近にリギングブロックが設置されている。
- ・樹上 4 ～ 6 m 付近にリギングの対象となる枝 (約 4 m 約 150 kg と想定) の両端にテープ (黄色) が巻かれている。
- ・地上にはブロック× 1、ローディングデバイス× 2、デットアイスリング× 2、ループースリング× 1、ウーピースリング× 1、E 2 E プルージック× 1、スチールカラビナ× 3、1 0 m 程度のリギングロープ× 1、リギングロープ× 1、タグ用ロープ× 1 が置かれている。状況により数やアイテムは変更する。
- ・チェーンソーストラップの付いた刃のないチェーンソーが用意されている。
- ・作業を想定したエリアは選手とジャッジしか入れないように囲われている。
(会場の樹木により高さなどの設定は変更する場合がある。)

競技説明

参加選手が場内に入った時点で時計はスタートする。グラウンドテクニシャンはプランニングを行い、作業プランを説明する。クライマーは指定されたアンカーでクライミングを行い、枝先に移動してリムトス (5 本)、その後ロードとなる枝にリギングロープをセッティングする。クライマーがチェーンソーを使用する模擬を行い、鈴を鳴らす。リギングのセッティングを元のように解除しギヤ類を元通りに戻し、クライミングロープを回収しスローラインへ戻す。全員が場外に出た時点で時計が止まり競技終了とする。制限時間は 20 分～30 分 (当日メインジャッジより発表する)

ルール

競技前

- ・出場チームは全員が揃わなくてはならない。5 分以上の遅刻で失格となる。
- ・出場チームはクライミングの道具 (ロープ、フリクションセーバー、サドル、ランヤード、ノコギリ、etc) 最大 2 セット、スローラインセット (スローライン 1、スローバック 2) を最大 3 セット場内へ持ち込むことができる。クライミング道具に忘れ物がある場合は取りに行くことはできない。

- ・出場チームはヘルメット、セーフティグラス等 P P E をつけ、必要な持ち込みギヤを手に場内へ入る。
- ・クライミングギア、リギングギア、チェーンソーなどすべて物の落下は即時停止、失格となる。
- ・クライマー 1 名、グランドテクニシャン（グランドワーカーリーダー） 1 名、グランドワーカー 2 名、マルチ 1 名（クライマーもできるが第 1 クライマーになれない）ジャッジがわかるように腕章をつける。
- ・グランドテクニシャンは作業プランをメインジャッジに話さなくてははいけない。

競技開始

- ・チーム全員が整列して誰か一人が線を超え場内に入ったところより時計はスタートする。
- ・チームの誰も走ってははいけない。もし走ったとみなされた時ジャッジは笛を吹きチーム全員はタイマージャッジが 1 0 秒数えるまで動くことができない。
- ・クライミングロープで上げることができるのはリギングロープのみとする。スローラインでブロックやチェーンソーなど重いものを上げることはできない。

クライミング

- ・クライミングヒッチはブレイクス、クローズドヒッチ（ディステル、シュワビッシュ、 4 コイル以下は不可）のみ使用を可能とする。
- ・クライミング前の点検は怠ってはならない。（アンカーチェック、B A R K チェック、バウンズチェック）
- ・クライミングアンカーはスローラインがかかっている状態よりスタートする。
- ・樹上で必ずタインしてインスペクションを行う。
- ・クライマーはいかなる時もオフロープ、アンコントロールスイングはしてはいけない。
- ・大きなスイングは失格となる。
- ・クライミングロープにエンドノットがないと減点される。
- ・クライマーは適切なスピードを保って移動又は下降しなければならない。
- ・空中でのボディスラスタイングは禁止とする。
- ・マルチが登る場合はあらかじめメインジャッジにプランニングをばなしアンカーの場所など許可を得ること。もし許可なくクライミングを行った場合は失格とする。

リムウォーク・リムトス

- ・リムウォークはオフロープになってはならない。
- ・適切なランヤードの位置でタインしなくてはならない。
- ・タインした後コールをしてノゴリを両手で扱い鈴を鳴らさなくてはならない。
- ・鈴を鳴らしたのちにリムトスを行うことができる。
- ・リムトスの本数は 5 本、地上のターゲットは 3 か所あり点数が異なる。
- ・リムトスが終了した後、枝に過度の負担をかけないように戻らなくてはならない。

チェーンソーの受け渡し

- ・チェーンソーはクライマーが樹上へ持って行ってもよい。グランドワーカーが技術を駆使して樹上へ届けるともよい。

- ・チェーンソーは樹上で必ず落ちないように何かの処置がされなくてはならない。
- ・チェーンソーストラップをチェーンソーから外してはならない。
- ・クライマーとグラウンドワーカーは適切なコールをしなくてはならない。
- ・チェーンソーはクライマーが持って降りてもグラウンドワーカーが技術を駆使しておろしてもよい。
- ・チェーンソーはライフサポートギヤを使って吊り下げてはならない。（ロープ・カラビナなど）

移動、リギングロープの設置

- ・ロードへの結びはリギング用に認められた結びを使用すること。
- ・グラウンドワーカーはローディングデバイスを設置しなくてはならない。
- ・必要に応じてタグロープを設置する。
- ・クライマーとグラウンドワーカーは連携してリギング作業の模擬をしなくてはならない。
- ・クライマーは適切にタインしてロードのカットの模擬を行う。模擬をしたのちチェーンソーカバーを付け、腰に適切にチェーンソーを付けて両手で鈴を鳴らさなくてはならない。
- ・グラウンドワーカーはリギングロープをローディングデバイスに適切にまかななければならない。
- ・クライマーとグラウンドワーカーは適切なコールをしなくてはならない。
- ・もし、事故を起こす可能性の模擬の場合、ヘッドジャッジは時間を止めて問題点を指摘する。時間内であれば模擬の内容を変更できる。

クリーンナップ

- ・ヘッドジャッジがO Kの声でリギングギアのクリーンナップを始める。
- ・クライマーとグラウンドワーカーは適切なコールをしなくてはならない。
- ・クライミングアンカーは競技開始前と同じようにスローラインだけが残った状態にする。
- ・チェーンソーは元の場所、状態に戻さなくてはならない。
- ・一度フィールドの外に出た時点で場内に戻ることはできない。
- ・全員が場外へ出たところで時計が止まる。

時間

- ・何度走ってペナルティーストップとなっても減点の対象とはならない。
- ・スタートから設定タイムを経過したところで終了。速やかに撤収しなくてはならない。
- ・同じ点数の場合終了タイムが早い方が上位になる。

② ツリークライミング スコアシート (1)

チーム名				ジャッジ名	
制限時間 (20~30分)	開始	時 分	終了	時 分	所要時間

それぞれOKならチェック(✓)してください。チェックしたら1点となります。

クライミング					
クライマー			グランドワーカー		
2人でアンカーチェックを行ったか			2人でアンカーチェック行ったか (3人目は樹上の動きを見ること)		
B A R Kチェックを行ったか			コールバック		
バウンズチェックを行ったか			コールバック		
エンドノットがあるか			次の段取りをしているか (G.Wのみ)		
樹木に負担がかからない登り方か			アドバイス (なければ確認しているか)		
チームワーク		- 5	0	5	1 0 1 5
					小計①

リムウォーク					
クライマー			グランドワーカー		
枝の揺れが激しくないか (行き)			アドバイス (なければ確認しているか)		
オフロープになっていないか (行き)			アドバイス (なければ確認しているか)		
ポジショニングができていますか			アドバイス (なければ確認しているか)		
コールをしたか			コールバックをしたか		
両手で鈴を鳴らしたか			次の段取りをしているか (G.Wのみ)		
チームワーク		- 5	0	5	1 0 1 5
					小計②

リムトス					
クライマー			グランドワーカー		
コールをしたか		1投目	コールバック		
コールをしたか		2投目	コールバック		
コールをしたか		3投目	コールバック		
コールをしたか		4投目	コールバック		
コールをしたか		5投目	コールバック		
枝の揺れが激しくないか (戻り)			アドバイス (なければ確認しているか)		
オフロープになっていないか (戻り)			アドバイス (なければ確認しているか)		
チームワーク		- 5	0	5	1 0 1 5
					小計③

② ツリークライミング スコアシート (2)

リギング			
クライマー		グラウンドワーカー	
ポジショニングができていますか		アドバイス（なければ確認しているか）	
コールができていますか		コールバック	
チェーンソーの受け渡し		チームで動いているか	
-	-	ローディングデバイスの装着（G.W）	
-	-	タグラインの装着	
リギングロープの取り扱い		リギングロープの取り扱い	
適切な結び方か（バットタイ）		-	-
チェーンソーカッティングポジション		-	-
コール		コールバック	
適切なチェーンソーの取りまわしか（ヒンジカット）		アドバイス（なければ確認しているか）	
受け口の処理		コールバック	
チェーンソーカバー		-	-
腰への装着		-	-
コール		コールバック	
鈴を両手で鳴らしたか		-	-
チームワーク	- 5 0 5 1 0 1 5		
			小計④

クリーンアップ			
クライマー		グラウンドワーカー	
チェーンソーを適切におろしたか		チェーンソーの下降に対応したか	
-	-	チェーンソーをもとの場所に戻したか	
-	-	リギングロープの取り扱い	
-	-	タグラインの取り扱い	
-	-	ローディングデバイスをもとの場所に戻したか	
適切なスピードで降りてきたか。		-	-
オープンロープのコール		オープンロープのコールバック	
クライミングロープの回収		クライミングロープの回収	
チームワーク	- 5 0 5 1 0 1 5		
			小計⑤

ジャッジポイント	- 3 - 2 - 1 0 1 2 3 4 5	
		小計⑥

総合得点（小計①+小計②+小計③+小計④+小計⑤+小計⑥）	点
-------------------------------	---

③ Rigging and load transfer

参加資格

- ・チームの構成は以下の条件を満たすこと。
 - ・メンバーの一人は必ず樹護士アーボリスト資格取得者
(もしくは樹護士アーボリスト受験資格保持者でこれから受験する方)
 - ・それ以外のメンバーは ATI のベーシックアーボリストトレーニングコース BAT1-BAT2 を修了した方

チーム構成

1 チーム 5 名

状況説明

- ・樹上 3 か所にロープの通ったブロックが設置されている。
- ・ロードが地面にある。
- ・1 本の木には G R C S が設置されている。
- ・地上にはロワーディングデバイス× 3、スリング× 9、フィドルブロックセット× 2、ブロック× 4 など複数のものはリギングギアコーナーに置かれている。(これ以外のギアを使用してはいけない)
- ・トローリーがおかれている。

競技説明

地上にあるロードをリギングロープで結束する。様々なリギングギアを駆使して障害物を回避し目的の場所へ手を触れることなく移動させ、トローリーに着地させる。リギングロープをほどきロープをブロックの下にまとめる。リギングトローリーはロードを乗せたまま目的の場所へ移動する。チーム全員がフィールドの外に出ると競技の終了となる。制限時間は 2 0 分

ルール

競技前

- ・出場チームは全員が揃わなくてはならない。5 分以上の遅刻で出場権がなくなる。
- ・出場チームはヘルメット、セーフティグラス等 PPE をつけ場内へ入る。
- ・自分達の持ち込んだリギングの道具は使用できない。

競技開始

- ・全員がそろったところでジャッジの「1, 2, 3, GO」の合図でスタートする。
- ・リギングロープは認められた適切な結び方をしないと減点になる。
- ・チームの誰も走ってはいけない。もし走ったとみなされた時ジャッジは笛を吹きチーム全員はタイマー
ジャッジが 1 0 秒数えるまで動くことができない
- ・ロードが浮いた時点より手を触れると減点になる。
- ・タグラインは必要があればつけることができる。

競技中

- ・ローディングデバイスや地上のブロック、フィドルブロックは何度でも付け替えることができる。
- ・人力で無理に移動しているとみなされた場合は重大な減点対象となる。（パワープレー）
- ・ロードの上昇にはウインチ、またはフィドルブロックを使用しなくてはならない。
- ・ロードの下降にはローディングデバイスを使用しなくてはならない。
- ・目的の場所へ移動し地面に完全に下りている状態でリギングローブを取ることができる。
- ・タグラインは必要があればつけることができる。
- ・ロードの移動後リギングローブ類は元の状態に戻すこと。
- ・ロードはトローリーに乗せて指定された場所へ移動することで得点となる。
- ・すべての工程を終了後全員がフィールドの外に出た時点で終了となる。
- ・一度フィールドの外に出た者は場内に戻ることはできない。

時間

- ・何度走ってペナルティストップとなっても減点の対象とはならない。
- ・スタートから20分を経過したところで終了。速やかに撤収しなくてはならない。
- ・20分以内に模擬を終わらせた場合、終了までの時間が早い順番に点数が加算される。

③ リギング アンド ロードトランスファー スコアシート

チーム名					ジャッジ名			
制限時間（20分）	開始	時	分	終了	時	分	所要時間	

スタート

チームワーク	- 5 0 5 10 15						
結びができていたらチェックする	1か所目		2か所目		3か所目		
ロードが動くまでの時間	時 分					小計①	

上昇

ロードの水平	- 2 - 1 0 1 2						
アイデア	- 5 0 5 10 15						
手を触れた回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 × - 1	
パワープレーの回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 × - 3	
チームワーク	- 5 0 5 10 15						
						小計②	

移動

ロードの水平	- 10 - 5 0 5 10						
アイデア	- 5 0 5 10 15						
手を触れた回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 × - 1	
パワープレーの回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 × - 3	
チームワーク	- 5 0 5 10 15						
						小計③	

下降

ロードの水平	- 10 - 5 0 5 10						
アイデア	- 5 0 5 10 15						
手を触れた回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 × - 1	
パワープレーの回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 × - 3	
チームワーク	- 5 0 5 10 15						
						小計④	

着地

ロードの水平	- 10 - 5 0 5 10						
アイデア	- 5 0 5 10 15						
手を触れた回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 × - 1	
パワープレーの回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 × - 3	
チームワーク	- 5 0 5 10 15						
トローリーが動くまでの時間	時 分					小計⑤	

トローリーでの移動

ロードの水平	- 10 - 5 0 5 10						
アイデア	- 5 0 5 10 15						
手を触れた回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 × - 1	
パワープレーの回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 × - 3	
チームワーク	- 5 0 5 10 15						
						小計⑥	

ジャッジポイント

	- 3	- 2	- 1	0	1	2	3	4	5	
										小計⑦

総合得点 (小計①+小計②+小計③+小計④+小計⑤+小計⑥+小計⑦)

点

④ Rescue

参加資格

- ・チームの構成は以下の条件を満たすこと。
 - ・メンバーの一人は必ず樹護士アーボリスト資格取得者
(もしくは樹護士アーボリスト受験資格保持者でこれから受験する方)
 - ・それ以外のメンバーは ATI のベーシックアーボリストトレーニングコース BAT1-BAT2 を修了した方

チーム構成

1 チーム 5 名

状況説明

- ・樹上 1 0 ～ 1 5 m 付近にクライミングアンカーとしての変更するためにアクセスロープがかかっている。
- ・地上 4 ～ 6 m にクライミングロープにぶら下がり、ランヤードをした状態で要救助者が下がっている。
- ・要救助者のアンカーと救助者のアンカーは約 4 m 離れている。
- ・要救助者の状況は大会により変化する。
- ・大会によりリギングのシステムも樹上に存在する。
- ・状況により要救助者がチェーンソーを持っていることもある。
- ・地上には刃のないチェーンソーも置かれている。
- ・作業を想定した範囲は参加選手とジャッジしか入れないように囲われている。
- ・会場の樹木により設定の高さや幅は変更する。

競技説明

メインジャッジのスタートの合図で時計はスタートする。チーム内の個人の役割はクライマー、指揮者、ビレイヤー、連絡役、マルチスタッフに分かれる。クライマーは要救助者を樹上に登り助ける役、指揮者は全体を見て的確な指示を出す。ビレイヤーは地上でロープをビレイし地上に降りる人を確保する。連絡役は救急車を呼ぶ、A E D を持ってくる、現場と病院や野次馬などのオーディエンスとの連絡役をする。マルチスタッフ 1 名はクライマー、グラウンドワーカーなどのようなサポートもすることができる。チームの準備ができ次第、指定されたアンカーでクライミングを行い、チーム全員で役割を守り、安全かつ迅速に要救助者を地上に降ろす。要救助者のカラビナを外して場外の指定ポイントまで行くと終了となる。役割にはできないことがある。制限時間は 3 0 分

ルール

競技前

- ・出場チームは全員が揃わなくてはならない。5 分以上の遅刻で失格となる。
- ・出場チームはクライミングの道具（ロープ、フリクションセーバー、サドル、ランヤード、ノコギリ、etc）最大 2 セット、スローラインセット（スローライン 1、スローバック 2）を最大 2 セット場内へ持ち込むこ

とができる。必要であるならばサドルとエイト環は必要数持ち込むことができる。クライミング道具に忘れ物がある場合は取りに行くことはできない。

- ・出場チームはヘルメット、セーフティグラス等 PPE をつけ、必要な持ち込みギヤを手に場内へ入る。
- ・クライミングギア、リギングギア、チェーンソーなどすべて物の落下は即時停止、失格となる。
- ・クライマー、指揮者、ブレイヤー、連絡役、マルチスタッフはジャッジにもわかるように腕章をつける。
- ・メカニカルギアや SRS は使用出来ない。
- ・事前のギアインスペクションを通していないものでも開始 10 分前にギアのインスペクションをマスタージャッジに申告することができる。

競技開始

- ・チーム全員が整列して誰か一人が線を少しでも超え場内に入ったところより時計はスタートする。
- ・チームの誰も走ってはいけけない。もし走ったとみなされた時ジャッジは笛を吹きチーム全員はタイマージャッジが 10 秒数えるまで動くことができない

クライマー：救急車を呼ぶ、AED を探す、野次馬の排除、要救助者のブレイ、は出来ない。

指揮者：救急車を呼ぶ、AED を探す、野次馬の排除、クライミング、は出来ない。

ブレイヤー：救急車を呼ぶ、AED を探す、野次馬の排除、クライミング、は出来ない。

連絡役：要救助者のブレイ、クライミング、は出来ない。

マルチスタッフ：どのような役もすることができる。ただし、第 1 クライマーにはなれない。

スタート

- ・各役割にあった行動をすることができる。
- ・事前にわかっている内容をプランニングして内容を提出または、時間内にプランニングを行いジャッジ及びチームにプランの説明を行う。
- ・救急車などの連絡はセーフティーゾーンに置いてある携帯電話で行う。救急車の到着時間はメインジャッジが決め競技者は勝手に決めることができない。
- ・AED は会場の何処かにある。（事前にどこにあるかはメインジャッジが話す。）
- ・野次馬役は主催者側スタッフが務める。

クライミング

- ・クライミングロープは必ずフリクションセーバーが必要。
- ・クライミングヒッチはブレイクス、クローズドヒッチ（ディステル、シュフビッシュ、4 コイル以下は不可）のみ使用を可能とする。
- ・クライミング前の点検はおこたってはならない。（プルチェック、BARK チェック、バウンズチェック）
- ・樹上で必ずタインしてインスペクションを行う。
- ・クライマーはいかなる時もオフロープ、アンコントロールスイングはしてはいけけない。大きなスイングは失格になる。
- ・クライミングロープにエンドノットがないと減点される。

- ・クライマーは適切なスピードを保って移動又は下降しなければならない。
- ・空中でのボディスラスティングは禁止とする。
- ・グラウンドワーカーは要救助者への声をかけ続ける。
- ・2人目のクライマーが登る場合はアンカーの場所などメインジャッジに許可を得なくてはならない。
- ・2人目のクライミング前の点検を怠ってはならない。
- ・第1クライマーは事前にセッティングされているアクセス用ロープのみ登ることができる。

要救助者へのアクセス

- ・リムウォークはオフロープになってはならない。
- ・適切なランヤードの位置でタインしなくてはならない。
- ・グラウンドワーカーはクライマーを地上から補佐することができる。
- ・要救助者のもとへたどり着いたら意識、呼吸、脈拍、の確認をおこない地上へ伝える。
- ・ロープの状況、リギングがあればリギングの状況を確認し地上に伝える。
- ・リギング道具で人を吊ることを禁止とする。
- ・止血や保定など適切な処置をしなくてはならない。
- ・プランの変更点があればチーム全体で共有し、ジャッジにも伝える。
- ・クライマーはクライミングアンカーの架け替えはできない。

クライミングダウン

- ・TARS でならった基本的な降り方でバックアップを確実に取り確実に要救助者を救助する。
- ・グラウンドワーカーと連携して救助する。
- ・クライマーが降りるときはコールを必ずおこなうこと。
- ・グラウンドワーカーはクライマーが地上に足が着くまでに地上で要救助者の受け入れ態勢を整えておく。
- ・グラウンドワーカーは常に要救助者に対して声をかけ続けなくてはならない。
- ・一度フィールドの外に出た時点で場内に戻ることはできない。

時間

- ・何度走ってペナルティーストップとなっても減点の対象とはならない。
- ・スタートから30分を経過したところで終了。速やかに撤収しなくてはならない。
- ・同じ点数の場合終了タイムが早い方が上位になる。
- ・メインジャッジのスタートの合図より始まり、時計が止まるのは設定により変化がある。

④ レスキュー スコアシート (1)

チーム名				ジャッジ名	
制限時間 (30分)	開始	時	分	終了	時 分
				所要時間	

それぞれOKならチェック (✓) してください。チェックをしたら1点となります。

リスクアセスメントとレスキュープラン

救急車の手配		ツリーインスペクション	
AEDの手配		サイトインスペクション	
野次馬の排除		レスキュープラン	

レスキュープラン内容

チームワーク	-	5	0	5	1	0	1	5	
									小計①

アセスメント&要救助者への移動

クライマー		グランドワーカー	
2人でアンカーチェック行ったか		2人でアンカーチェック行ったか (3人目は樹上の動きを見ること)	
BARKチェック行ったか		コールバック	
バウンスチェック行ったか		コールバック	
エンドノットがあるか		次の段取りをしているか (G.Wのみ)	
樹木に負担がかからない登り方か		アドバイス (なければ確認しているか)	
-	-	要救助者への声掛け	

リムワーク

枝の揺れが激しくないか (行き)		アドバイス (なければ確認しているか)	
オフロープになっていないか (行き)		アドバイス (なければ確認しているか)	
ポジショニングができていないか		アドバイス (なければ確認しているか)	

チームワーク	-	5	0	5	1	0	1	5	
									小計②

要救助者の確認、要救助者の取り扱い

クライマー		グランドワーカー	
要救助者の状況の確認を行ったか。		要救助者の状況の確認を行ったか。	
要救助者への処置を行ったか。		処置に対するサポートを行ったか。	

処置方法など

④ レスキュー スコアシート (2)

要救助者の確認、要救助者の取り扱い									
レスキュープランの変更などをグランドと話したか。									
降下へ向けての要救助者の確保を行ったか。									
グランドにビレイの指示をしたか					ビレイをクライマーと連携したか				
レスキュープランに沿った方法か					レスキュープランに沿った方法か				
チームワーク			- 5	0	5	1	0	1	5
小計③									

降下										
クライマー					グランドワーカー					
コールをしたか					コールバックをしたか					
-					-	要救助者に対しての処置を行える準備はできているか				
適度なスピードで降りてきているか。					ビレイコントロールしているか。					
-					-	声掛けは継続しているか。				
チームワーク		- 5 0 5 1 0 1 5								
									小計④	

着地									
クライマーは即座にグランドに要救助者を引き渡しているか。									
グランドはクライマーのサポートをしているか。									
グランドは要救助者の適切な処置を受けついでいるか。									
チームワーク			- 5	0	5	1	0	1	5
小計⑤									

役割ポイント									
クライマー	- 3	- 2	- 1	0	1	2	3	4	5
指揮者	- 3	- 2	- 1	0	1	2	3	4	5
ビレイヤー	- 3	- 2	- 1	0	1	2	3	4	5
連絡役	- 3	- 2	- 1	0	1	2	3	4	5
マルチスタッフ	- 3	- 2	- 1	0	1	2	3	4	5
チームワーク		- 5	0	5	1	0	1	5	
小計⑥									

ジャッジポイント	- 3	- 2	- 1	0	1	2	3	4	5
小計⑦									

総合得点 (小計①+小計②+小計③+小計④+小計⑤+小計⑥+小計⑦)	点
------------------------------------	---

このルールブックに記載されている内容を無断転載・引用・複写（コピー）を禁じます。本書に記載されている内容は Arborist ®Training Institute/樹護士アーボリスト実行委員会に帰属します。

【問い合わせ先】

JAC 樹護士アーボリスト®チャレンジ実行委員会

アーボリスト®トレーニング研究所内

〒480-1201 愛知県瀬戸市定光寺町 3 2 3 - 4

info@japan-ati.com

TEL 0561-86-8080

FAX 0561-86-8580

--MEMO--



樹護士アーボリスト®チャレンジ 2022



Name: _____